児童に見られるつまずき

　日常生活において、比例の関係を有効に活用することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　表と式を用いて、伴って変わる２量が何なのかを説明したり、比例を用いた問題を作成したりする活動を行い、日常生活の場面と比例を結び付けて考えられるようにする。

指導事例集ｐ．８７

１　学年・単元名　　第６学年　比例と反比例（数量関係領域）

２　単元目標

　比例と反比例の意味を知り、その性質やグラフについて理解する。

３　単元の内容

　・比例の意味とその性質

　・比例する事象を判断する

・比例する事象を式に表して考察する

　・比例する事情をグラフにして考察する

　・比例する事象を式に表し、その式からグラフをつくる

　・比例のグラフのよみ方

　・表、式、グラフを使って比例かどうかを判断する

**・長さ（厚さ）や重さをもとにした枚数や本数の求め方**

　・反比例の意味とその性質

　・反比例する事象を判断する

　・反比例する事象を式に表して考察する

　・反比例する事象をグラフに表して考察する

４　本時の目標

　　比例関係を利用し、工夫して全体のおよその数を求めることができる

参考：板書

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | １　問題文を読み、問題場面を把握し、ベニヤ板の枚数の求め方について、見通しを立てる、  ２　ベニヤ板全体の枚数を１枚の厚さから求める  ３　くぎ1本の重さを２ｇとし、全体の重さから、くぎ全部の本数を求める。  ４　２つの問題から、何と何が比例しているのかをペアで話し合う。  ５　比例する関係を用いた問題を作る。  ６　友だちの作った問題を解いてみる。  ７　ふりかえり | ・ベニヤ板の厚さが何と比例するのかを考えさせる。  ワークシート①使用  参考：ワークシート①記入例  ・式であらわしたり、表にあらわしたりして考えさせる。  ・くぎ１本の重さを２ｇとして、全体の本数が求められるようにする。  ワークシート②使用  参考：ワークシート②記入例  ・１あたりの量と全体の量がわかっていることを確認する。  **・伴って変わる２量が何なのか、比例しているということはどういうことかを話し合わせる。**  **・２つの問題の共通点に目を向けるように伝える。**  （評価）２量が比例していることから、１あたりがわかれば、いくつ分がわかることが話し合えたか。  ・身の回りにあるものから、１あたりの量と全体の量を決め問題を作る。  ワークシート③使用  参考：ワークシート③記入例  **・問題を解くだけでなく、問題を作ることで、どの2量が比例関係なのか理解を深める。**  **・比例になっていない問題も取り上げて、なぜ比例になっていないかを考えさせることで、比例についての理解を深める。**  （評価）  比例の関係を有効に活用することができたか。 |